

C—85 短大家政科の被服構成及び実習に関する  
研究(第2報)

—本学短大家政科学生の実態—

名古屋女大家政 ○古川智恵子  
荻野千鶴子  
加藤 恵子  
後藤 喜恵

1. 被服構成及び実習の指導において、高校履習課程の違いによる知識技能差が入学当初一部の者について認められた。しかしこのような差異が授業の進行と共に、卒業時までどのように移行するか、調査はいまだなされていない。そこでこれらの点について学生の意識調査をまじえて検討を行い、コース別あるいは、高校履習課程別に実態を把握して、今後の能率的な被服指導のあり方、及び効果的な被服教材の設定の基礎資料としたい。

2. 資料は学生150名を対象に実技テスト、ペーパーテスト、及び意識調査を実施、それぞれの特質について検討。

3. (1)短大家政科コース別(被服・食物・文化教養)学生の被服構成及び実習に対する関心度の傾向がつかめた。

(2)技能テストの結果は、高校における履習課程の差異による能力差が、明確にみとめられた。

(3)ペーパーテストにおける被服構成の基礎テストでは、家政課程に優位な有意差がみられた。

(4)ペーパーの機械の基礎テストでは家政課程と普通課程の間に差がみられなかった。

以上の資料により得たものを、今後授業面で能力に応じた指導のあり方を追求したい。